



コロサイ 3:18- 4:1

=====  
先週、こんな仮定の質問をしましたよね。もし誰かが、私たちが神様を愛したかどうかを質問したなら、神様は何と答えるだろうと。神様が私たちが愛したかどうかではありません。神様が愛してくださったことは知っていますものね。十字架で私たちへの愛を証明してくださいましたから。質問は、神様が私たちが愛しているかどうかではありません。そうではなくて、私たちが神様を愛しているかを、神様は知っていますか？ということです。

私たちは完璧からは程遠いですよ。それでも、もし私たちが神様に、私やあなたは神様を愛したかどうかを聞くなら、神様は何とお答えになるのでしょうか？確信してお答えになるのでしょうか？

私たちは神様に尋ねることはできるでしょうが、神様がお答えになるかはわかりません。そうやって訊くものではないからでしょう。

でも真実は、もしあなたが本当に神様を愛しているなら、そんな質問すら必要ないでしょう。なぜかって？だって、皆が、あなたが神様を愛していることを知っているはずだからです。だって、それは表れているはずだからです。

先週コロサイ3章でみたように、神への愛は外側に表れてきます。

5節から9節：コロサイ 3:5 ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。

コロサイ 3:6 このようなことのために、神の怒りが下るのです。

コロサイ 3:7 あなたがたも、以前、そのようなものの中に生きていたときは、そのような歩み方をしていました。

コロサイ 3:8 しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。

コロサイ 3:9 互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、10節：コロサイ 3:10 新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。

12節から13節：コロサイ 3:12 それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。

コロサイ 3:13 互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。

私たちが互いに愛し合うことによって神への愛は表れてきます。

もし配偶者に愛されていることを感じるか尋ねたとしたら、何と彼らは答えると思いますか？親や、子ども、学校や職場の先輩や後輩に同じ質問をしたら、どう答えるでしょう？

ここで、ある人はこう考えるかもしれません。

私はほかの人が何て言おうと気にしないわ、と。

神様以外の人に証明してもらう必要はないわ、と。

それで神様は納得するのでしょうか？

イエス様はこう言われました。

ヨハネ 14:15 もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。

ヨハネ 15:12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

互いに愛し合うことが、神様を愛することなのです。

コロサイ 3章を見てみましょう。

コロサイ 3:18 妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。

コロサイ 3:19 夫たちよ。妻を愛しなさい。つらく当たってははいけません。

これはコロサイの人だけにあてた忠告ではないことを理解してください。この結婚への考え方は、聖書を通して出てきます。

エペソ 5:22 妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。

エペソ 5:23 なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。

エペソ 5:24 教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。

エペソ 5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

コリントの人々へ、パウロはこう語ります。

1コリント 11:3

しかし、あなたがたに次のことを知っていただきたいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。

ですから、この結婚の教えは聖書の至るところで明確に語られていることがわかるでしょう。実際、この教えはアダムとイブにも語られているのです。

創世記 3:16 女にはこう仰せられた。「わたしは、あなたのうめきと苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。しかも、あなたは夫を恋い慕うが、彼は、あなたを支配することになる。」

ですから、このことを心に留めておきながら、1つずつ聖句を見ていきましょう。

コロサイ 3:18 妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。

まず、この箇所ではパウロが何を言いたかったのかを吟味するために、「従う」という言葉の定義を見てみましょう。

もともとのギリシア語は「アポタソ フーパタソス/upotassw hupotasso {hoop-ot-as'-so}」という語です。軍事用語で、下部に属することを意味します。軍は通常ランク付けがされていますよね。将軍がいて大佐、少佐、大尉、軍曹、兵卒がいる。

病いの部下をイエス様に癒してほしいとやって来たローマの百人隊長の話にも、同じ語源の言葉が出てきます。

ルカ 7:8 と申しますのは、私も権威の下にある者ですが、私の下にも兵士たちがいまして、そのひとりに『行け』と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをせよ』と言えば、そのとおりにいたします。」

この「under」という言葉の語源がギリシア語の「アップ フーポ／upw hupo {hoop-o}」です。

ですから、コロサイ 3：18に出てくる言葉も、軍事用語だということがわかるでしょう。

コロサイ 3:18 妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。

人として、将軍より賢くて、技能があり、心持のいい兵卒はいるでしょう。ですが、やはり兵卒は将軍より位が下なのです。将軍が将軍らしいから従っているわけではないのです。

同様に、妻は夫がそれにふさわしいから従っているわけではありません。妻は、夫が夫であるゆえに従っているのです。この従うということには、より優れているからとか、技能があるからということとは関係ないんです。ですが、これは結婚における神様の秩序と関係があるのです。

1 コリント 14:33 それは、神が混乱の神ではなく、平和の神だからです。聖徒たちのすべての教会で行われているように、

「Submission」(服従)という言葉は、「Sub」と「mission」からできていますよね。ですから、結婚には神に従い、栄光を帰すという「mission」(使命)があるのでしょう。

夫に従うことで、結婚を通して妻としての、神の使命を果たすのです。

コロサイ 3:18 妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。

「主にある者にふさわしく」という言葉が意味するところは、妻は、まるで夫が神様であるように、何事にも疑問を持たずに絶対服従するというものではありません。

聖書のどこにもそんなことは書いていません。それは、偶像礼拝の罪にあたるでしょう。「主にある者にふさわしく」という言葉が、ここに例外があることを示しています。

例えば、

夫が、聖書の言葉にそむくような罪を妻におかすように言ったとき。

夫が、アルコールやドラッグなど、人格が変わってしまっている状態で言ったとき。

夫が暴力的になっており、言葉でも肉体的にも脅してくるとき。

姦淫の罪をおかして、結婚の絆を壊したとき。

これらは明らかに、主にある者にふさわしい行動ではありません。

これではまるで、娘を愛しているけれども虐待してしまう父親のような状態です。

一方で、主にある者として行動することを決意する妻がいる一方で、そうでない妻がいることも事実です。同意していることに関しては、夫に従いやすいですよ。でも、同意してない時にこそ、信仰が試されるのです。

中には、夫を家族の頭にはするものの、実際は自分が首の役目をして、頭を動かす女性もいるかもしれません。

エペソでパウロは何と言っているのでしょうか？

エペソ 5:22 妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。

言い換えれば、妻たちよ、夫に従いなさい。というのも、夫に従うことが、神様への愛情深い自らの意志での服従を表すからです。

対照的に、妻が夫に服従しない時、それは単に夫に従わないというだけでなく、イエス・キリストに従わないことになるのです。

神さまはあなたの不服従をどう思われるでしょう？ 自分の中で正当化することはできるでしょうが、それは

自分を欺く結果に終わるだけです。

ヨハネ 14:15 もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。

それではこれらは、これから将来の夫を探すシングルの人たちにはどのような意味をもつのでしょうか。

それは、配偶者をとっても注意深く選ばないといけないということです。それが、妻として神様が要求されていることだからです。

シングルでいるよりも悪いことはいくらでもあるのです。間違った男性と結婚することは、シングルでいるよりも桁違いに悪いことです。

次の箇所を見てみましょう。

コロサイ 3:19 夫たちよ。妻を愛しなさい。つらく当たってははいけません。

パウロは、こうは言いませんでした。「夫たちよ、妻に親切にしなさい」「夫たちよ、妻に優しく接しなさい」

これだけでも、たいがいの結婚生活はかなり改善されるのですが。

ですがこれは、パウロが言わんとしたこととは違います。

彼が言おうとしたことは、「夫たちよ、自我を捨てなさい」ということなのです。

エペソでパウロは何と言ったのでしょうか。

エペソ 5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

考えてみてください。もしキリストが十字架で私たちのために死ななかつたら、愛を示さなかつたら、私たちはキリストに自身をささげないのではないのでしょうか。

もちろん、ささげないですよ。

はじめに十字架上での死がないのに、どうしてキリストに服従することができるでしょう。

十字架上での死があるからこそ、心から服従することができるんです。

悲しいことに、多くの男性が妻を愛することの意味を理解していません。

多くの男性はコロサイ3:18を、鞭のように使います。

ビシッ！妻たちよ、従いなさい！聖書に書いてあるのだから！

でも実際には、妻に従ってほしいなら、あなたが最初に死なないといけないのです。

それが聖書の順番なのです。

エペソ 5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

でも死ぬってどのように？ 文字通りの意味でないことは確かでしょう。

それは、キリストが私たちにそうしてくださったように、無条件の自己犠牲の愛で妻を愛し、仕え、自分を否定するということです。

それは、霊的な権威を妻に譲り渡すということではありません。

そうしてしまっただけは、大きなミスを犯すことになるでしょう。

それがエデンの園でアダムがしてしまった失敗です。

1テモテ 2:14 また、アダムは惑わされなかったが、女は惑わされてしまい、あやまちを犯しました。

アダムは惑わされませんでした。彼は自分が何をしているか知っていました。知っていながら、神に背いたので

これは私たち夫に、何を語っているのでしょうか。

私たちは御言葉によって、何度も何度も死ななければならないということです。

霊的に大切なことでなければ、自我を捨てろということです。

妻に自分の道を進ませてください。家具を選ばせて、夫のひげが気に入らないなら切らせて...というふうに霊的に重要でないなら、妻の言う通りにすればいいのです。

ですが、霊的に重要なことに関しては、あなたが家庭の霊的指導者になってください。

イエス様は私たちを愛し、死んでくださいました。だからって、イエス様は私たちに絶対的な権威をお与えになりましたか。いいえ！このように、男性も妻と向き合うのです。

聖書にもこうあります。

1コリント 11:3 しかし、あなたがたに次のことを知っていただきたいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。

この順番が逆になれば、それはとても悲しい光景ではないでしょうか。

もしここで言われているような明確な秩序の絆が壊れているなら、つまり、夫がクリスチャンでなかったり、先に話したように妻にノンクリスチャンのような行いを強要したり、そもそも夫がいなかったりするなら、妻は絆のもう1つ先であるイエス様に従うべきでしょう。

コロサイ 3:20 子どもたちよ。すべてのことについて、両親に従いなさい。それは主に喜ばれることだからです。

パウロはここで家族の単位について語っています。ここで、また親元において、親の権威下にいる子どもたちのことを語っているのですね。子どもたちは単に親を敬うだけでなく、すべてのことについて、両親に従いなさいとあります。

ですが、もし両親が子どもを虐待していたり、神の教えに背いた行いを強要するなら、やはりここでも絆が壊れていますので、人ではなく神様にしがってください。

子どもが両親の元を巣立つと、もう同じような服従の義務はないですが、敬う気持ちはいつまでも残ります。

コロサイ 3:21 父たちよ。子どもをおこらせてはいけません。彼らを気落ちさせないためです。

これは母親だったら子どもをおこらせていい、ということではありません。親たちはたいがい子どもに対して要求が多くて、許さず、支配しがちで、シンプルに言えば、意地悪です。

そして、言葉や行動、言語外でのコミュニケーションでそういった気持ちを表現しがちです。

そしてこれらが子どもたちを気落ちさせ、往々にして諸問題の引き金になります。愛情からのしつけをしてはいけないということではまったくないのです。聖書は子どもへのしつけについて多く語っています。ですが、愛情、慈愛をもってしつけを行ってくださいということなのです。神様はどう私たちをしつけられましたか？

私たちが間違った行動をすると、聖霊によってすぐに教えられませんか。

ヘブル 12:6 主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。

神様は愛情をもって私たちを懲らしめ、悔い改めへと導きます。

ローマ 2:4 それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。

これが、子を愛情をもってしつける良い例となるでしょう。

コロサイ 3:22 奴隷たちよ。すべてのことについて、地上の主人に従いなさい。人のごきげん通りのような、うわべだけの仕方ではなく、主を恐れかしこみつつ、真心から従いなさい。

「主を恐れかしこみつつ、真心から従いなさい」というところに注目してください。  
それが神に従う夫であろうと、夫に従う妻であろうと、親に従う子どもであろうと、主人に従う召使であろうと...

主を恐れかしこみつつ、真心から従うということから、すべてが始まり終わるのです。この前提に立って書物は終わるのです。

17節を見てみましょう。

コロサイ 3:17 あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。

23-24節はどうですか？

コロサイ 3:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心からしなさい。

コロサイ 3:24 あなたがたは、主から報いとして、御国を相続させていただくことを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているのです。

何をするにも、主に対してするようにする。というのも私たちは、主から報いとして、御国を相続させていただくことを知っているからです。

マタイ 25:21 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんのお金を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

一方でこういう警告もあります。

コロサイ 3:25 不正を行う者は、自分が行った不正の報いを受けます。それには不公平な扱いはありません。

もし自称クリスチャンが、不誠実に、怠けて、信頼できないようなやり方で働いているなら、神様に「なぜ仕事を辞めさせられたのですか！」と尋ねることはできないでしょう。彼らはただ不正の報いを受けただけです。

実際、あなたが神様にやるように仕事をしたなら、一番優秀な社員でないはずがないのです。クリスチャンだということは、より責任感を増すことになるでしょう。

コロサイ 4:1 主人たちよ。あなたがたは、自分たちの主も天におられることを知っているのですから、奴隷に対して正義と公平を示しなさい。

あなたが社会的にどんな位置にあったとしても、この章を要約するのは黄金律ではないでしょうか。

イエス様は、一番大事な教えは何ですかと尋ねられた時、こうお答えになりました。

マルコ 12:29 イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。』

マルコ 12:30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

マルコ 12:31 次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」

祈りましょう！

